

平成 23 年度

学校要覧



多摩市立多摩中学校

所在地 〒206-0011 東京都多摩市関戸3-19-1
電話 042 (375) 7023 (代)
FAX 042 (337) 7646
ホームページアドレス <http://www1.ttv.ne.jp/~tamachu/>
e-mail tamachu@ttv.ne.jp

I 学校の沿革

昭和	<u>22・04・01</u>	<u>学制の改革に伴い多摩村立多摩中学校を多摩小学校内に設置</u>
	04・19	松尾圭介初代校長就任
	24・04・01	多摩中学校PTA結成、小泉五十治氏会長に就任
	26・05・12	中学校建設委員会を設け、新校舎の建設着工
	27・07・25	現在地に新校舎落成移転
	10・01	金丸勝人第二代校長就任
	10・12	校旗制定
	28・03・03	校歌制定
	30・10・01	田中正和第三代校長就任
	<u>32・12・24</u>	<u>創立10周年記念式典挙行</u>
	33・12・18	講堂落成式挙行
	34・05・13	飯田栄一第四代校長就任
	36・07・20	プール(25m×12m)完成、落成式挙行
	39・04・01	多摩町制施行に伴い多摩町立多摩中学校と改称
	41・04・01	横溝義一第五代校長就任
	09・01	心身障害学級開設
	42・02・15	体育館完成
	<u>11・12</u>	<u>創立20周年記念式典挙行</u>
	45・04・01	麓仁一第六代校長就任
	09・30	校舎鉄筋化工事完了(4階建16教室)
46・11・01	多摩市制施行に伴い多摩市立多摩中学校と改称	
48・03・31	校舎鉄筋化特別教室棟完成	
50・04・01	青木治平第七代校長就任	
52・11・05	創立30周年記念式典挙行	
55・04・01	常磐新第八代校長就任	
04・14	クラブハウス完成	
59・04・01	伊藤次郎第九代校長就任	
08・24	ハンドボール部全国大会優勝(男子)	
61・08・24	ハンドボール部全国大会優勝(男子)	
62・04・01	水越昭忠第十代校長就任	
平成	03・04・01	深田洋子第十一代校長就任
	04・02・21	多摩市教育委員会研究奨励校研究発表
	06・01・31	新体育館落成式挙行
	07・11・21	東京都国際理解教育推進校研究発表
	08・04・01	向平決第十二代校長就任
	<u>09・11・15</u>	<u>創立50周年記念式典挙行</u>
	10・02・25	多摩市教育委員会研究奨励校研究発表
	11・04・01	前島俊寛第十三代校長就任
	14・04・01	山本修司第十四代校長就任
	18・02・08	多摩市教育委員会研究奨励校研究発表
	18・04・01	原島久男第十五代校長就任
	18・11・25	文部科学大臣表彰(キャリア教育充実の功績)
	19・02・22	東京都歯科保健優良校表彰
	20・11・28	「社会を明るくする運動」表彰
	21・10・29	全日本歯科保健優良校奨励賞表彰
	22・03・04	東京都歯科保健優良校奨励賞表彰
	22・09・09	東京都消防庁多摩消防署救急業務発展学習表彰
	22・10・20	多摩市教育委員会研究奨励校研究発表
	23・02・10	東京都歯科保健優良校表彰

II 教育目標・指導の重点

1 教育目標

自立 共生 創造

(1) 学校の教育目標

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ア 人間としての自立に必要な資質を身に付けさせる。そのために学習指導をより一層徹底し、特に基礎的・基本的な知識・技能を習得させる指導に力を入れるとともに、「わかる授業、楽しい授業の創造」を目指して指導の方法及び技術の質を高める。また、少人数指導やティームティーチング等を積極的に導入し、生徒一人ひとりの関心や学習内容の習得の程度に応じた指導に取り組み、その活用と探究の促進を図る。
- さらに、学生指導ボランティア等を活用し、放課後及び土曜日、長期休業中に教科等の授業の補充等を主たる内容とした学習支援教室「サポートスクール」を実施する。
- イ 互いの人権を尊重しながら共に助け合って生きていくための共生の心をはぐくむ。そのために、豊かな心を育てる道徳、集団生活を向上させるための特別活動、自ら課題をみつけ探究し、よりよく解決するための資質や能力を付ける総合的な学習の時間等の内容を充実させ、学校としての特色ある教育活動を推進する。
- ウ 特別な教育的支援を要する生徒の指導を充実させる。子ども支援小委員会を月2回開催して情報交換や支援方法の検討を行う。またそのために、関係諸機関と連携し、一人ひとりの状態に応じた学習支援を行う。
- エ 一人ひとりの個性を大切に、創造力・表現力を伸ばすための教育活動を展開する。そのために、授業、行事、係活動、部活動等、学校の全教育活動にわたり活動内容や指導方法の工夫・改善に努め、それらの創造的な実践を通して、すべての生徒が思考力や判断力を向上させながら自分のよさを発揮し、活躍できる場面をつくり出すものとする。
- オ すべての生徒が自分の能力や個性を安心して表現し、諸活動に取り組むことのできる教育環境を整える。そのために、家庭との連携を深めながら生徒に基本的な生活習慣を確立させる。また、集団の一員であることを自覚させるとともに、規範意識をもたせ、規律ある学校をつくる。
- カ ユネスコスクールとして持続発展教育(ESD)を各教科・領域において導入に努め、特に環境・食育・伝統文化・国際社会等を視野においた人格形成や持続可能な社会の担い手となる生徒をはぐくむ。国際理解教育としては、日英交流事業でテムズ川流域の学校との交流を推進する。
- キ 家庭や地域との連携と協働を一層推進しながら学校教育活動の活性化と充実に努める。そのために、特にPTAとの連携を強めるとともに、地域の人材、環境、施設等の有効活用を図る。また、学校運営連絡協議会、保護者、生徒等による評価を真摯に受け止めたうえで、学習指導、生活指導に生かすよう努め、さらに、生徒自身に地域の一員であり、地域の担い手である自覚をもたせ、社会貢献の意義を理解させ、伝統校で学ぶ誇りを醸成し、それを継承させる。

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間

ア 各教科

- ① 基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせるために、基礎的内容の螺旋的な学習や段階別の小テスト等を実施し、理解及び習熟の程度に応じた個別指導を充実させ、思考力を高めながら確かな学力を身に付けさせる。特に、数学、理科、英語においては、少人数授業を展開する中で演習を多用し、基礎的・基本的な内容の学習を徹底する。社会、音楽においては国旗・国歌の指導を行う。
- ② 調べ学習、実験、討議、発表など、言語活動の充実を図りながら多様な体験の学習や課題解決の学習を積極的に取り入れ、学ぶ楽しさを味わわせるとともに、進んで課題を求め、主体的に学習に取り組む意欲や探究心・表現力を育む。全教科においてコンピュータ等の情報及び電子黒板等の視聴覚機器の活用を推進する。
- ③ 選択教科においては、習得した内容を確かな学力として定着させ、それを効果的に活用していくことのできる学習内容や指導方法を考え実践する。
- ④ 評価基準を生徒・保護者に常に明確にし、生徒に習熟及び達成の程度を自覚させながら目標をもって学習に臨ませるとともに、学習評価を授業や指導の改善に生かす。
- ⑤ 家庭等で積極的に学習や自由研究等に取り組む習慣を身に付けさせる。そのために、日々の授業の中で一人ひとりを励まししながら、技能や知識を向上・拡充させ、自分の課題を見い出させる指導の工夫を行う。
- ⑥ 授業改善推進プランに基づき各教科における授業研究を推進し、上記の指導の改善や工夫とその効果を検証しながら、指導方法・技術の質のより一層の向上を図り、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。
- ⑦ 学生教育ボランティア、保護者、地域の人材等を活用し、放課後及び土曜日、長期休業日に、教科の授業の補充を主たる内容とした学習支援教室としての「サポートスクール」を実施し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

イ 道徳

- ① 全教育活動を通して心の教育としての道徳教育を行う。そのために、日常から全教員による指導を行うとともに、地域や保護者との積極的な連携を図る。また職場体験や職場訪問において道徳性の育成を図る指導の工夫を行う。
- ② 道徳性を育成するための要としての道徳の時間の充実を図り、心のノートや副教材を活用して道徳的心情をはぐくむとともに、それに基づく実践意欲・態度を身に付けさせ、ESDカレンダーへの反映を図る。
- ③ 総合的な学習の時間及び特別活動との関連を図った指導計画を作成するとともに、一人ひとりの感性や感情を適切に表現する機会を数多く設定できる、より考えやすく身近な資料の収集とその有効活用にも努める。

ウ 総合的な学習の時間

- ① 各教科及び道徳、特別活動と関連付けるとともに、中学校3年間を視野に入れた年間指導計画に基づき、教科の枠を超えた教師間の連携協力により、「人としての生き方」についての学習等に取り組ませる。
- ② 体験的な学習活動を通して、自ら学習課題を発見し、調査し、まとめ、発表する技能を身に付けさせる。特にコンピュータの活用を推進し、調査、発表の技術を向上させる。また、生徒が自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決していこうとする意欲や探究心を育てる。
- ③ 地域の恵まれた自然環境や人材・施設・文化等を積極的に活用する。また、ESDを視野に入れた課題をみつけ、自ら課題解決に向けて主体的に取り組む態度を育てる。

- ④ 社会に関心を向けさせる指導をする中で、ESDを意識した食に関する指導や国際理解教育、また環境教育を推進する。社会人講師やゲストティーチャーによる指導、地域における体験活動、CO₂削減アクション月間への取り組み、エコプロダクツの発表等を積極的にを行い、地域社会や保護者との連携を図る。

エ 特別活動

- ① 学級活動を活性化させることにより生徒の自主的、実践的な態度を育成し、個性の伸長及び集団の質的向上を図る。
- ② 学校行事の中で生徒一人ひとりの個性や能力に応じた活動の場を設定し、達成感・成就感を実感させる。道徳及び総合的な学習の時間との関連を図り、ESDの理念を意識させることで、集団活動の意義や協力の必要性を生徒自身が感じ、より良い人間関係を構築し、集団の一員として自覚ある行動ができるようにする。
- ③ 生徒一人ひとりを、係活動・委員会活動・生徒会活動等に積極的に参加させ、自主的・実践的な態度を育成し、充実した自治活動が運営できる集団を育成する。

オ 特色ある教育

- ① 小中連携事業を推進する中で、小学生の中学校授業体験や部活動体験、中学生による小学生への読み聞かせや創作発表、中学校教員による出前授業等を実施する。またキャリア教育の一環として高校の先生による出張授業を実施する。
- ② 保健体育における武道・ダンスの指導を充実させ、伝統競技への理解を深め主体的な創造力を身につけさせる
- ③ 伝統文化の継承の意義を考えさせ、社会人講師を招いての百人一首の競技や和楽器の演奏等を積極的に取り入れる。
- ④ 5月の運動会前の朝練習や12月のロードレース大会に向けての放課後練習に全校的に取り組み、体力の向上を図る。

(2) その他の活動

ア 内面的な成長を促すために、読書活動を推進する。そのために、朝の15分間読書をさらに充実させるとともに、学校図書館司書及び司書教諭との連携を深めながら教科指導としての調べ学習や発展的内容の学習としての読書活動を推進する。また、ブックトークや読み聞かせ等の読書指導の推進を通して、学校図書館の利用を促進する。

イ 生徒一人ひとりの興味に基づいた部活動を組織し、活性化に向け地域の人材や近隣大学の学生を部活動外部指導員等として積極的に活用する。

ウ 生徒が休日を有意義に過ごせるようにするため、地域の健全育成団体や社会教育関係団体、ボランティア団体、PTA等との連携を深めていく。その中で、生徒に地域の担い手であることを自覚させ、文化財等の保護や継承していく心を育み、地域への誇りや愛着心を醸成する。

(3) 特別支援教育

- ① 個別指導計画の作成を促進し、保護者との共通理解を図りながら、スクールカウンセラー・特別支援ピアティーチャー・関係諸機関との連携を密に行い、その活用を実践していく。
- ② 子ども支援委員会を学期に1回、子ども支援小委員会を月に2回それぞれ設定し、情報共有と支援に関する連携・検討を重ね、指導に生かしていく。

(4) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ① 問題行動のない秩序ある校風を維持する。そのため、本校の生徒指導上の課題を明確にし、問題行動に対しては全教職員の共通理解の下に毅然とした指導を行う。また、PTA、地域、関係諸機関との連携を図りながら、生徒の健全育成に努める。
- ② 教職員が生徒や保護者から深く信頼される学校を目指す。そのため、日常の生活指導に当たっては、厳しさと温かさのバランスのとれた働きかけにより心にしみ通る指導を行う。
- ③ いじめを防止するために、教職員一人ひとりがいじめについて共通認識をもち、情報の確実な共有のもと解決・解消に向け対応する。また、教育相談に当たっては、生徒一人ひとりの人間関係や家庭環境をよく理解し、生徒の立場に共感しながら悩みや要望を聞き取り、励まし助言する。そして、その生徒の人生をよりよくするための最善の方法を探すという観点から真剣に本人や保護者と話し合う。さらに、不登校にもつながる欠席の長期化防止に努める。家庭及びスクールカウンセラーや関係諸機関、小学校と一層連携し、情報把握及び不登校防止のための指導を行う。
- ④ 生徒が自分たちの学校生活を自ら充実させていこうとする校風を目指す。そのために、委員会活動や生徒会活動等の諸活動を一層活性化する。また諸行事の実施に当たっては企画段階から参画させ、すべての生徒が達成感、充実感を味わうことができるよう、活動内容や指導方法の工夫・改善を図る。
- ⑤ 飲酒、喫煙、薬物乱用等の触法行為について、また通信機器や情報ネットワーク等の適切な活用方法について、実物、ビデオ、専門家の講話等を通して、その悪影響を実感させ、自分の健康や安全を守るために絶対に行わないという意志を身に付けさせる。さらに命の大切さを常に意識できるような指導を推進する。
- ⑥ 校内及び校外生活にかかわる安全指導について、避難訓練、セーフティ教室等における想定訓練を充実させ、事件・事故から身を守る方法等について指導する。また、全校生徒から情報を得て作成した「安全・防犯マップ」を活用し、日常から家庭で防犯意識を高める取り組みを行うようはたらきかける。そして学校と家庭、地域社会が連携し、安全・防犯意識をより一層高める。

イ 進路指導

- ① 3年間を見通したキャリア教育としての指導計画と本校独自の指導資料に基づき、自分自身の個性や能力に応じた進路を主体的に選択し、自己実現を図れるように導く。
- ② 総合的な学習の時間に、職業調べ学習、職場訪問学習、連続5日間の職場体験学習を計画的に実施し、地域の施設や人材を活用した体験的・実践的な活動に取り組みさせる。
- ③ ESDを踏まえた生涯学習の意義について理解させ、望ましい勤労観・職業観を育成する。

Ⅲ 年間授業時数配当

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	選択	道徳	学活	総合	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	105	35	35	35	50	1015
2年	105	105	105	140	35	35	105	70	105	70	35	35	70	1015
3年	105	105	140	140	35	35	105	35	105	70	35	35	70	1015

※1単位時間は50分とする

Ⅳ 学校行事

月	行 事	月	行 事
4	始業式、入学式、部活動説明会、保護者会、学校公開週間	10	中間テスト、聖桜祭、道徳授業地区公開講座
5	生徒総会、運動会、教育実習(～6月の3週間)	11	教育相談(全学年)、期末テスト
6	職場体験(2年)、校外学習(1年)、期末テスト	12	進路面談(3年)、CTD、終業式
7	CTD(校内美化)、保護者会、終業式、水泳指導、夏季休業、教育相談	1	始業式、移動教室(1年・2年)
8	夏季休業、教育相談	2	CTD、学年末テスト、学校説明会
9	始業式、防災訓練、CRD(河川美化)、生徒会役員選挙、修学旅行(3年)、学校説明会	3	CTD、保護者会、卒業式、修了式

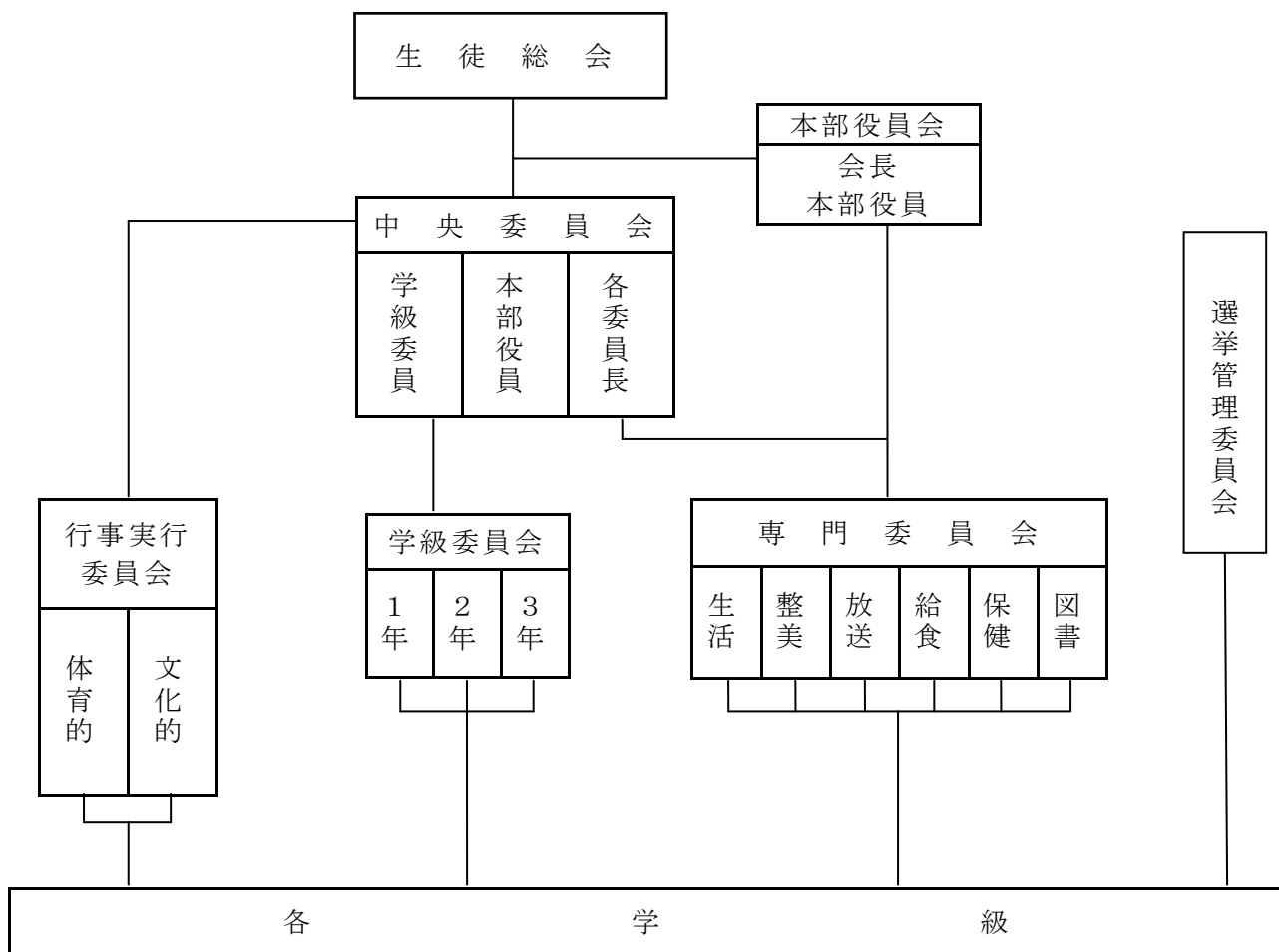
Ⅴ 在籍生徒数及び教職員

H.23.4.7 現在

通常学級:12学級 F組(通級指導学級):1学級 計:13学級

校長 原島久男 副校長 権藤義彦 三浦純幸 主幹教諭(教務主任) 佐久間康弘 主幹教諭(生活指導主任) 広江俊彦 主幹教諭(進路・学習指導主任) 宮下洋行 主幹教諭(2年生学年主任) 中村多江 主幹養護教諭(保健主任・特別支援コーディネータ)							
学年	学級	男	女	計	担任	副担任	事務・非常勤・派遣等
一年	A	18	21	39	三浦 純幸(数学)	佐久間康弘(数学) 戸井田京子(英語) 山根由香理(理科)	松岡 忍(事務主任) 河野美沙子(事務職員) 井上 達雄(技能主査) 北原 壮一(非常勤教員) 吉野美佐枝(図書館司書) 水嶋 洋子(スクールカウンセラー) 吉川由里子(ピアティチャー) 岡 容子(学校給食配膳員) 松山由紀子(学校給食配膳員) 中野佳代子(学校給食配膳員) 黒田信雄(管理員) 小川 繁(管理員) 郡司弘之(管理員) 我妻倉松(管理員)
	B	18	20	38	金田 広美(保体)		
	C	17	22	39	藤野 康明(英語)		
	D	17	22	39	宮野はるみ(家庭)		
	計	70	85	155			
二年	A	17	22	39	林 航太(理科)	宮下 洋行(保体) 河上 由紀(数学)	
	B	18	21	39	三浦 摩利(英語) 阿部 紘子(国語)		
	C	17	21	38	黒田 昌三(技術)		
	D	18	21	39	水谷 健治(社会)		
	計	70	85	155			
三年	A	20	19	39	鈴木 孝洋(数学)	廣江 俊彦(理科) 渡部美恵子(音楽) 車田 幸道(美術)	講 師
	B	20	20	40	高倉真寿美(国語)		
	C	20	19	39	斉藤 洋一(社会)		
	D	20	19	39	中西 文夫(英語)		
	計	80	77	157			
合計	220	247	467			寺岡 万里(国語) 高松 大輔(社会) 田中身江子(数学)	
F組	3	0	3	阿部みち子 一色雄生			

VI 生徒会活動



VII 部活動

部	男女	顧問	部	男女	顧問
バスケットボール	男女	斉藤・一色	剣道	男女	佐久間
陸上	男女	藤野・宮下	卓球	男女	中西
野球	男女	黒田・水谷	ハンドボール	男女	広江
バレーボール	男女	三浦(純) 阿部(紘)	吹奏楽	男女	渡部
硬式テニス	男女	鈴木・戸井田 阿部(み)	文芸	男女	高倉
サッカー	男女	林・戸井田	JRC(青少年赤十字)	男女	中村・三浦(摩) 車田
なぎなた	男女	金田・河上	クッキングサークル	男女	宮野
野外活動	男女	山根・宮下			

VIII 校舎配置図

4階	美術室	美術準備	コンピュータ室	<<特別棟>>			体育館 プール 体育室 談話室(クラブハウス) 和室 更衣室			
3階	1理科	理科準備	2理科							
2階	被服室	家庭準備	調理室					階段	音楽準備	2音楽
1階	金工室	技術準備	木工室						音楽準備	1音楽

>> 2階通路 <<

4階	西 階	2D	2C	2B	2A	中 央 階 段	1D	1C	1B	1A	東 階 段	
3階		視聴覚室	特別活動3	特別活動室	特別活動室		3D	3C	3B	3A		
2階		資料放送室	職員室	事務室	校長室		応接	生徒会室	会議	学校図書館		
1階		F教室	F職員室	F教	特別支援室		PTA室	保健	SC相談室	学習		

<<本校舎>>

校 歌

(昭和28年制定)

望月久貴 作詞
小島喜久寿 作曲

- 1 みどりの里を めぐる桜木
向いの丘に 文化うけつぐ
花よささやけ このほこり
われら行く 日々にあらたに

- 2 ゆくての夢は 高い青雲
まなざし清ら 真理みつめる
多摩よせせらげ この息吹き
われらたつ 常にいそしみ

- 3 一生の幸と たのむ友垣
学園ここに 道義つちかう
自主よかがやけ この母校
われらみる いつも楽しく